

武豊地区学校間連携への取組

1 連携の足取り

月 日	衣浦小学校 (神谷)	富貴小学校 (氏家)	富貴中学校 (小林)
5. 30	<ul style="list-style-type: none"> 総合教育センターで、小中連携の在り方・もち方について話し合う。 町英語研究会代表の石橋教頭 (富貴中) へ連絡を取り、協力校3校の教務主任・担当者の会を開いてもらうことを願う。(小林) 		
5. 31			<ul style="list-style-type: none"> 小学校の授業で評価を蓄積するための「評価シート (案)」を作成・衣浦小へ送付する。
6. 4	<ul style="list-style-type: none"> 評価シート案について加筆・訂正を加える。 		
6. 7			<ul style="list-style-type: none"> 加筆・訂正をしたものを再び衣浦小へ送り、次回の協議内容の1つにする。
6. 12	<ul style="list-style-type: none"> 学校訪問で“What day is it ?”(5年)の授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣浦小の授業を参観する。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣浦小の授業を参観し、感想を送る。
6. 27	<p>総合教育センターで、1か月の取組について話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 英語の授業をすることについての教員の反応 <ul style="list-style-type: none"> 外国語活動に抵抗のある先生も少なくない。 児童への声掛けも少なく児童・教員間、児童・児童間の会話も少ない。 クラスルーム・イングリッシュの使用頻度・程度と発音について <ul style="list-style-type: none"> 学級担任が発音に不安をもっており、正しいか分からず戸惑っている。 基本的には日本語を話さないが、児童はよく理解している。 授業の教材・単元構成の作成 <ul style="list-style-type: none"> A L Tのデータをもらっておく事が大切である。フラッシュ・カードではなく、教室に設置されたテレビに携帯用画像再生機からの画像を見せながら、発音練習している。授業開始時には必ず前時の復習をして定着を図っている。 ラミネートされたフラッシュ・カードを使い、発音練習を行っている。 A L T, 指導員とのチーム・ティーチング <ul style="list-style-type: none"> 3校ともA L Tが他校と掛け持ちをしており、打合せ時間がほとんどとれない。 富小ではA L Tが指導案をファックスで送ってきて、打合せ時間をとらずに授業をしている状態である。 富中も同様に、英語教員が指導案をA L Tにファックスで送っている。 児童・生徒の様子, 表情 <ul style="list-style-type: none"> 5年生は、英語の時間は大好きで意欲的である。 6年生も楽しみにしている。 その他 <ul style="list-style-type: none"> 小学校用評価シートについて <p style="text-align: center;">↓</p> <p>日付や題「Topic」の記載をどうするか。</p> <ul style="list-style-type: none"> クラスルーム・イングリッシュの講座や講義・練習も必要か。 <p style="text-align: center;">⇓</p> <p>小学校では、まず研究協力員が率先して授業を行い、学級担任がT1として主導権を握って、授業中の一つ一つの指示を出すように心掛ける。</p> <p>中学校教員は、クラスルーム・イングリッシュの練習が小学校で必要であれば出向く。</p>		
7. 4	<ul style="list-style-type: none"> ビデオを見て研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ビデオを見て研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年英語担当教員の授業を参観する。(ビデオ撮影) 現職の研究授業と兼ねる。
<p><総合教育センター所員からの指導></p> <ul style="list-style-type: none"> テンポがあり、活気のある授業で50分があっという間に過ぎた。 全生徒が課題に向かって前向きに取り組んでいた。 指示の出し方、ポイントの確認、早くできた生徒への指示が的確だった。 クラスルーム・イングリッシュが行われていた。 クラスルーム・イングリッシュに関する掲示物を掲示しておくことで英語が苦手と思っている生徒にもよく分かり、つづりも定着するのではないか。 ←これは小学校でも同様で、児童だけでなく教員にもよく分かるのではないか。 			



児童の様子

	<p>また、発音を練習できるようなCD等を用意するとよいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な手だてが講じてあり、工夫された活動で楽しみながら重要表現が身に付く活動だった。小学校の段階でコミュニケーション活動が積極的にできれば、中学校で書く活動の時間をもう少し確保できるのではないか。 ★中学校英語における書く活動について 繰り返し書く活動では、発音しながら書いてはどうか。書いたらすぐ確認する方法はないか。(間違えたつづりを何回も書くのはどうかと…) 		
7.15	・1年生にアンケートを実施し、回収する。	・1年生にアンケートを実施し、回収する。	・1年生にアンケートを実施し、回収する。
17	<p><アンケート結果からの分析(センターの先生からの質問と回答)></p> <p>Q1 武豊地区では「英語が苦手という生徒が多い割りに、英語の授業が好きだ」と言う生徒が多いのはなぜか。</p> <p>A1 中学校の該当英語教員のひととしての「魅力・人間力」や授業力にかかわっているのではないかと思う。また、英語が難しくても、授業の中で自分から積極的にかかわることのできる活動があったり、自己実現できる場があるからではないかと思う。</p> <p>Q2 富貴小5年の1クラスで「英語がとても好き・まあまあ好き」を合わせると100%になるのはどこに秘けつがあるのか。</p> <p>A2 学級担任はT1として前面に出ているわけではないので、やはりALTの力が大きいと思う。学級担任ではなく、ALTの雰囲気等だと思う。</p>		
8.5	<p>武豊町現職英語教育研究会(2小学校+1中学校の代表者+教務主任)</p> <p><研究協議内容・今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までに行った2つの授業(衣浦小:“What day is it?”と富貴中:Unit 3 Part 3 コミュニケーション活動を用いた否定文の習得)は、この時点ではあまり記憶に残っておらず、メモをしてくださった方のご意見をまとめたに留まった。→ やはりすぐ研究協議をしないとイケない。 ・9月上旬に衣浦小・神谷先生によるALTとのTT(ビデオ撮影付)を行い、5時以降そのビデオを見ながら検討会議をもつ。 → 結局時間が取れず検討会議を開催できず。 ・2学期以降の学校訪問、学校公開日に限らず授業を見学・参観する場合は、授業者が「どの柱・どの観点」で見たいのかを明示し、参観者は感想等を批評箋や付箋紙に書いて渡すようにする。→ 3校の協力員で感想を送り合う。 ・中学校教員が小学校に出向いて、ALTとのTTを行ったり、小学校の学級担任とTTを行ったりする。→ まだ実現せず。 *比較的に時間が自由になる2学期期末=11月下旬を予定している。 ・授業の足跡をたどるポートフォリオ型の評価については、時間ごとに1枚の紙を渡していくと児童への負担が大きいため、1月で1枚(4回の授業で、小項目+大きな反省を1つ書く)のパターンを検討中である。→ 実施中 		
8.7	<p>夏季知多英語研究会・知多市勤労文化会館 小学校部会、中学校部会(1・2・3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23年度に向け、様々な悩みや意見が聞けてとても参考になった。 ・小学校の抱えている問題点が明確になり他地域のことがよく分かった。 ・文部科学省の方針と現場の考え方の歩み寄りの必要性を感じる。 ・英語ノートについての意見が聞けたのがよかった。東海市のように一致団結して取り組みたい。 ・他市町村のカリキュラムも見てみたい。 ・英語ノート、1~4年生の外国語活動の取扱いについて聞けてよかった。 ・新学習指導要領の対応の仕方について各学校の状況を知ることができた。 		
8月下旬	・児童用の自己評価カードを作成する。(トピックの理解度はなし)	・児童用の自己評価カードを作成する。(トピックの理解度付き)	
	<p>5・6年理解度を抜いた1月毎のバージョンで統一</p>		
9.11	<p><授業者の反省></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回はT1として、授業を展開できた。また、最近では復習はT1が行うというのが通常になってきた。(教員の意識もALTに任せるといった状態ではなく 		

なってきた。自分で英語の授業を進めていると実感できている)

- ・“How are you ? game”については、A L Tと打合せをしたが、実際にやったことがなかったので、スムーズにモデル対話が行えなかった。
- ・“How are you ? I'm ~. の pointing game”では、答えが“I'm hot.”など短い答えに集中してしまうため、曜日や数字などの単語を活用すべきであった。新しい題材を考えると盛り上がってよいと思う。

<参加者の感想> (小林)

- ・テンポのよい指示とクラス・オーダーがしっかりしていたのが好印象であった。
- ・クラスルーム・イングリッシュも多用されていて練習の成果が見られ、聞き取りやすい英語だった。

9. 29

- ・A L Tの交替に伴い、職員会で「英語授業の進め方」として、学級担任がT 1として授業ができるように、モデルケースを提示し、共通理解を図る。
- ・ポートフォリオ型の評価については、全体の傾向と個人の傾向の分析を行う。

- ・衣浦小：神谷先生からの反省や提案を受け、メールで自分なりの考えを送る。
- ☆カリキュラムについて、気付く点をメールで返信する。(英語・文法上の誤り)
- ・回数を追った上での個人の変容を見るようお願いをする。

10. 7

<授業を見ての感想・小学校のT Tと中学校のT Tの違い等> (神谷)

☆1年 Word Box 2 曜日

- ・A L Tの発音を聞きながら、正しい単語を選ぶゲームを是非取り入れたい。
- ・“Mr. ~”“Ms. ~”と呼び、“Yes”で返事をするのも参考になった。
- ・本時の曜日の内容は、小学5年生での既習事項であるため、取り組みやすかったのかということに興味がある。← 既習事項でも覚えていない生徒が多い。
- ・小学校では文全体で意味が分かればよいけれど、中学校では文の構造や単語の意味まで分からなければいけない。大きな違いだと思う。
- ・中学校で使用している「学びの手引」が参考になった。

☆2年 Speaking Plus 2 電話の会話

- ・テンポがよく授業中の雰囲気もよかった。挙手も多かった。
- ・音読練習で順番に縦列の生徒が移動していく方法は、飽きずに練習できる。
- ・口頭でのポイント説明より、板書しながらの説明の方がよかったのではないかな。
- ・じゃんけんの方法が面白かった。
- ・実際に電話を使うのはよい学習支援であったが、「切実感のある対話」には物足りなかったと思う。もう少し教員が役になり切る必要があったのではないかな。

10. 14

<授業者の反省>

- ・T 1として授業を展開することができた。スムーズに授業を行えた。

<参加者の感想>

- ・T 1としてよく機能していた。“Change, Carlos !”などの表現でクラス・オーダーがよくとれていた。学級担任の英語力に脱帽である。
- ・個別指導は日本語で確実にやっているのはよいと思う。
- ・“CrissCross”が面白かった。ただ、教科名の習熟に時間がほとんど費やされていたので、“What's your favorite subject ?”の習熟ができるように工夫するとよい。
- ・授業のまとめの段階で writing が入っていたのは、中学校へのよいつなぎとなる。
- ・評価カードを時間内に書かせたのがよかった。今後の評価の生かし方がかぎである。

<参加者の感想>

- ・クラス・オーダーがよくできており、授業の流れがスムーズである。しかし、時に先生の意図通りにいきすぎて、ゲーム性の薄れる場面もあったと思う。
- ・クラスルーム・イングリッシュが多用されていて好印象である。通じにくい表現の時のフォローの仕方に工夫がほしい。
- ・T Tとしての掛け合い、児童の前への出し方や引き方は絶妙だったと思う。
- ・評価カードの記入方法については、欄に書けない児童がいるので、配慮が必要である。
- ・T 2 (T 1も行う場合はあるかも?) のフラッシュ・カードの提示の仕方や、大文字、小文字の統一についての見解をはっきりさせたい。
- ・ライティングシートのJの書き方やP. E.の「.」の扱いについて一考したい。

10. 15

小中連携 (外国語) 研究協力校連絡会で半年の取組を振り返り、成果と課題について話し合う。

	<ul style="list-style-type: none"> 1. T1として授業を行うことで得たもの 2. ポートフォリオ評価をすることで得たもの 3. ALTとの関係 4. 中学校の英語授業を参観することで得たもの 5. 小学校の英語活動を参観することで得たもの 6. 1～5の課題と改善するための取組 7. 今後の小中連携のあり方について 8. その他 		
	・まとめレポートの作成	・まとめレポートの作成	・まとめレポートの作成
11. 14		<p>英語活動研究授業（富貴小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任がT1となる授業を5，6年担任に見せる。 ・授業検討会で，最初と最後のあいさつや自己評価カードについて取り入れることが決まる。 <p><参観者の感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTが初出の表現（She, He）について，児童が理解していない様子であるにもかかわらず授業を進めてしまうのが気になる。 	
12. 2		<p>町現職英語教育研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 概要説明 2. 町ALTの整備の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・21年度は現在の2人体制だが，22年度からからは3人体制へ移行する。 3. 武豊町の小学校英語活動の方針 <ul style="list-style-type: none"> ・担任がT1として指導する。（←ALTの充実が課題） ・教材・教具の充実を図る。（←町のカリを日本語・英語両方のパターンで作成） 4. 英語ノート <ul style="list-style-type: none"> ・<u>21年度はカリキュラムと英語ノートの関連を探り，適切なアクティビティを探す。</u> 5. ALTに対する悩み・要望 <ul style="list-style-type: none"> ・ALT1…学習活動に対する児童の反応が十分汲み取れない。 前時から本時への連続性についての意識が低い。 ・ALT2…T2としての机間指導の充実が必要である。 	
2. 17		<p>町現職英語教育研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 武豊町の小学校英語活動のカリキュラムの見直し <ul style="list-style-type: none"> ・2名のALTによるゲームの進行状況や使用単語の差について検討する。 ・3月上旬までに20年度の改定箇所を富貴小・担当教員へ提出し，集約した後，各校へCDとして配付し，紙資料として製本をする。 2. 小学校の英語ノートと評価 <ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度についてプラスの方向で記述をする。 3. 次年度のALTの活用方法と時間割 <ul style="list-style-type: none"> ・午前を中学校（武豊中2週・富貴中1週）で，午後を富貴小学校での授業に変更する。 ←学校間のALTの移動をスムーズに行うための配慮である。 4. 小中連携英語 <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板を使つての授業や，英語ノートを活用した中学1年生の英語の授業の在り方を検討する。 （平成21年4月20日からの週で富貴中1年で研究授業を予定） 5. 知多地方英語研究会より <ul style="list-style-type: none"> ・20年度のまとめ・冊子の配付について 	
2. 19		<p>小中連携（外国語）研究協力校連絡会で，今後の取組について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 英語ノートの活用法 2. 文字指導（フォニックスとの関連） 3. 電子黒板の使用 4. 次年度の予定について 	
H21 4. 7	衣浦小学校の提案		・県総合教育センターのフォ

	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の担任を対象に、英語活動の進め方（オール・イングリッシュ）を提案する。 →担任がT1で授業を運営する。 →自己評価シートに毎時間記録し、児童が自分の活動を振り返る場を設ける。 	<p>ニックス教材の一部を用いて、授業を行う。</p>
<p>15 16</p>		<p>富貴小学校の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生で英語の授業オリエンテーション（オール・イングリッシュ） ・5年生で英語の授業オリエンテーション（オール・イングリッシュ） ・ALTとの打合せ →授業の流れや最初の5分で使用するワークシートについて、武豊カリキュラムに沿って行うことを確認する。
<p>23 24</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6年で英語活動研究 授業を行う。校内のすべての教員に参観を呼び掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度の英語活動が始まる。 
<p>5. 14</p>	<p>町現職英語教育研究会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動計画案 <ul style="list-style-type: none"> ・ALTの日程配置や学校訪問の日程を確認する。 2. 英語ノートの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板を使用し、小学校で見覚えのある図や歌を取り入れることで、小学校英語との関連をもたせる。 3. 小中での授業参観・交流 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校で授業を参観し合う。 ・英語ノートの活用場面について、授業カリキュラムとの関連について検討する。 	
<p>6. 12</p>	<p>小中連携（外国語）研究協力校連絡会で今年度の方針について話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校でのフォニックス実施状況の報告 <ul style="list-style-type: none"> <教員の現状と課題> <ul style="list-style-type: none"> ・的確な指導法がよくわからない。 ・小テストや書く練習の時間を費やしている割に、向上が見られない。 ・効果を上げられるようなモデル、VTR または講習会があるとよい。 <生徒の様子> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生徒自身が発音に気を配るようになった。</u> ・新出単語の発音練習で、学習済みのフォニックスルールを使って注意を促すと、生徒の発音が格段に良くなった。 <冊子の使いやすさ> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム感覚で取り組める楽しい内容であるが、毎時間行うのは難しい。 2. 学校間連携での話し合う内容 <p>小学校の英語ノートと武豊町のカリキュラムの対応点を洗い出す。</p> 3. 児童生徒の活動 <p>武豊町としての方針を確認する。</p> <p>→小学校外国語活動では担任がT1として活動を進める。</p> <p>コミュニケーション能力の素地の育成に向けて、<u>オール・イングリッシュ</u>による授業展開を構成する。</p> 	
<p>6. 19</p>	<p>英語科研究授業（富貴中学校 学校訪問）1年 Unit 3 「グリーン先生の初授業」</p> <p><参観者の共通な感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の明るい前向きな姿勢が、英語の授業では特に大切だと感じた。教員が前向きなら、生徒も前向きになれると感じた。 ・<u>電子黒板を活用すると</u>、生徒からの歓声も上がり、視覚的に訴える教具の使用も外国語活動に興味をもたせ、進んで参加しようとする一つの方法だと感じた。 ・小学校外国語活動の楽しさも、中学校での意欲につながる。 <p><参観者の感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜を使って"I like ~." "I don't like ~."の表現を聞く場面では、とても興味深そうだった。英語を通して相手を理解できるのは、生徒にとって価値がある。 	

- ・小学校外国語活動を想起させる場面もあり、「何となくやったことがあるなあ」と思い出せばよいと再確認した。
- ・全体への指示を的確に出し、最後の尋ねる文までモデルで示すと良い。
- ・小学校では、何度も繰り返し聞かせ言わせるので、読みにくい単語にカタカナをふることには違和感があった。



＜参観者の感想＞

- ・小学校に比べて授業スピードが断然速く驚いた。
- ・イメージをもたせながらフォニックスの指導をされていたのが、わかりやすい。しかし、発音の際、口の形や舌の位置に気を配っているのかは疑問だった。

6. 22

衣浦小学校の提案

- ・英語活動の進め方についての確認を行う。
- ・教員も子供もできるだけ英語やジェスチャーを使う。
→英語を聞いて相手の思いが伝わる楽しさや、英語を使って自分の思いが伝わることの楽しさを体験させたい。
- ・自己評価シートに「英語や身振り手振りを使って伝えようとした」という項目を新設する。
- ・武豊カリキュラムのゲームの内容を検討する。
→回を追うごとに評価は上がっているが、習熟の低い児童に変化が見られないので、支援の仕方を考えたい。

7. 2

- ・電子黒板を使った英語研究授業研修会を開く。(英語ノート電子版使用)

7. 15

小中連携(外国語)研究協力校連絡会で、1学期の取組みについて話し合う。

1. 小学校(5, 6年生), 中学校1年生を対象としたアンケート
 - ・アンケート項目と実施時期について検討, 確認する。
2. フォニックスタイムの効果検証方法
 - ・テスト項目と実施方法について検討, 確認する。
→Unit 4学習後にアンケートを実施し, 正答率, 空欄率の分析を行う。
3. 小中連携についての現状報告
 - ・昨年度の発表以降について小牧地区, 武豊地区による報告を行う。
 - ・小中連携の経験者からの提言を受けて話し合う。
→小学校から中学校に望むこと
小学校での外国語活動で育成されてコミュニケーション能力の素地の上に, クラスルーム・イングリッシュの継続や小学校で行ったゲーム内容を取り入れて, 小学校英語から中学校英語へとつながった授業をしてほしい。
→中学校から小学校に望むこと
コミュニケーション能力の素地に関する小学校間の差をなくすために, ALTやカリキュラムを統一してほしい。(同一中学校区内)



8. 6

武豊町英語活動伝達講習会

＜町内4小学校全職員参加＞

講師：富貴小学校担当者

1. T1としての担任の在り方について
2. 英語ノートの活用方法について
3. 担任とALTとの役割分担について
4. 指導・助言 総合教育センター所員

- ・夏季知多英語研究会に参加する。研究発表と各学年分科会で話し合いを行う。井村哲也先生の講義に参加する。

. 26

町現職英語教育研究会

1. 各校の英語教育についての情報交換
 - ・クラスルーム・イングリッシュの活用が進んでいる。
 - ・英語ノートと武豊カリキュラムの対応をさらに検討する必要がある。
 - ・高学年の担任はT1の意識が定着してきた。
2. 小学校英語の伝達講習会を経て
 - ・小学校の授業はレベルが高い状態である。
 - ・電子黒板等を活用した小学校の良さを, 中学校の英語の授業でも試みたい。
3. その他

9.	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の経過報告を行う。 ・ALT 3人体制について要望をする。
10. 9	<p>3校で英語活動のアンケートを行う。富貴中はフォニックステストも併せて行う。</p>
10. 13	<p>・知教研研究集会 3分科会に分かれて研究発表と質疑・応答を行う。また、中西哲彦先生による講義「コミュニケーション能力再考」に参加する。</p>
10. 21	<p>英語活動研究授業（衣浦小学校 学校訪問）6年「友達の誕生日を知ろう」 <衣浦小での研究協議> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーを取り入れてコミュニケーションすることは有効であった。相手に誕生日が伝わらなかったときに、指やジェスチャーで伝える姿が見られた。 ・活動のゴールを明確にすることが必要であると確認された。 ・ゲームを通して表現に慣れさせたり、モデルを提示したりする方法について情報交換した。 <参観者の感想> <ul style="list-style-type: none"> ・カードや提示物は、見やすく貼ることが大切である。板書した文字の上にかぶらないようにすると集中力が増す。 ・列ごとにバリエーションをもたせて発音指導するのは良いが、いつも同じ列からスタートしていたため、同じ言葉しか発音していない列がある。 ・インビューゲームの前に、教員のモデルだけでなく生徒のモデルも使っていたのが分かりやすく、児童も意欲的に行おうという姿勢が高まっていた。 ・担任がT1をしていたことで、児童にも安心感があり、学級の児童の特徴をよくとらえて指導がなされていた。学級経営の良さが随所にみられた。 </p>
10. 27	<p>小中連携（外国語）研究協力校連絡会で、今までの成果について話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. センター研究発表会の打合せ <ul style="list-style-type: none"> ・レポート内容の項目と書き方の確認 2. アンケートの集計結果と考察 <ul style="list-style-type: none"> ・3回のアンケートから見えてくる児童生徒の姿 3. フォニックス指導の効果の検証
10. 27	<p>英語活動研究授業（富貴小学校 学校訪問）5年「友達の誕生日を知ろう」 <富貴小での研究協議> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任がT1として授業の構成ができていた。 ・児童が楽しそうに外国語活動に取り組んでいた。 <参観者の感想> <ul style="list-style-type: none"> ・担任と児童の関係がとても良く、スムーズに授業が展開されていた。 ・児童が活発に活動している姿が良く、その意欲を中学校でも継続させたい。 ・最初のあいさつで5人の児童に聞く方法は良いが、急ぐあまりアイコンタクトなどが取れていないのが残念だった。 ・新出文のリピート練習が少なく自信がないままアクティビティに入るため、不安そうであった。 ・ワークシートに一人一人の誕生日が英語で記入されており、工夫が見られた。しかし、児童はその英単語が読めずアクティビティに支障が出ていた。 ・文字を書く指導が必要あるかどうかは、検討の余地がある。 </p>

2 成果と課題

(1) 成果

全教員に外国語活動の構成・展開する方法を示し、研修を行ったり、外国語活動担当者が授業を公開したりした。それにより、学級担任がALTとの打合せを確実に行うようになり、教員自身が英語やジェスチャーを積極的に使ってコミュニケーションを図るなど、T1として外国語活動に臨むという教員の意識改革ができた。

中学校教員は、小学校の外国語活動に参観できたことで、小学校での学習内容を知るよ

い機会となった。中学校では、小学校での既習事項や学習形態を積極的に取り入れることで、明るい雰囲気での授業を進められ、英語を苦手とする生徒も「英語はまだまだ苦手だけど、英語の授業は好き」と口にするようになり、授業に積極的に参加するようになってきた。

小学校間の連携を生かし、それぞれの小学校での取組や学習内容・方法を聞き、情報を共有化できた。そのことで、中学校入学時に小学校段階での学習内容に差が生じないようにすることができた。

(2) 課題

昨年度課題となっていた中学校1年生における「文字ショック」「メモリーショック」を軽減するためにフォニックス教材を取り入れた。しかし、教員自身がフォニックスを初めて扱ったため、正しい指導法が分からず、多くの効果をあげることができなかった。フォニックス指導のための講習会や指導書が必要である。

小中学校間で授業を公開し合ったとしても、小中連携会議を開催することは難しい。さらに小学校間での学習内容の差をなくし、よりよい指導法を共有するために、情報を共有化する場を工夫して設定することが必要である。

武豊町の外国語活動カリキュラムと英語ノートの配列が異なる部分が見られる。今後はそれらを照らし合わせ、より精選されたカリキュラムを作成することが必要である。

(3) 小中連携を通して感じたこと

小中連携を通していくつかの成果をあげることができた。しかし、小学校での外国語活動は始まったばかりであり、活動と教科のねらいの違いから小中での学習内容に開きがあると感じられる。今後さらに、同じ中学校区の小学校間で連携を深め、小学校間の学習内容の差や指導法を改善していくことが「外国語を学ぶ楽しさ」の維持のために必要である。